

ニッポンハム食の未来財団 平成 28 年度 団体活動支援助成 完了報告書

企画活動名	第 9 回 食物アレルギー教室 (第一部：講演とエピペン講習会、第二部：料理講習会)
フリガナ	タケウチ スミコ
申請者（代表者）氏名	武内 澄子
団体名（正式名称）	団体名 ：食物アレルギーの子を持つ親の会 役職・肩書など：代表

1. 活動結果要約

当会は、食物アレルギーの患者家族と保育・教育関係者、栄養・調理関係者、行政関係者、食品企業、関心のある市民など、食物アレルギーの基礎知識と対応の実践力をともに学ぶ場として、各地で継続的に「食物アレルギー教室」を開催しています。

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団の助成により、2016年11月27日に栃木県足利市で「第9回食物アレルギー教室」を開催しました。第一部は食物アレルギーの指導医による「負荷試験の意義と栄養の摂り方&エピペン講習会」、第二部は料理研究家の方に「クリスマスメニュー&デザート」を教えてくださいました。

当日は栃木県内各市および群馬県や茨城県から、医療関係者、保育園・幼稚園・小学校関係者が多数参加され会場は満席でした。本教室参加により、正しい知識が得られて治療の方向性が見えたこと、エピペンについては実際に練習できたことに大きな反響がありました。料理教室では保育園・幼稚園・学校の給食や行事の際に提供できる料理を実習しましたが、これなら園でも作れるというお声をいただきました。全員に同じ料理を提供できる機会を増やしたいという目的が達成されました。

知識不足に起因する不安が対応を困難にしていることが実感できて、本教室開催の意義を再確認しました。

2. 活動目的

食物アレルギーについての社会的認識が広まり、対応も進んできています。文部科学省よりアレルギー疾患に関するガイドラインや指針も出されて、学校関係者には医師による研修会が行われています。その結果、食物アレルギーの基礎知識から緊急時の対処法に至るまで知識も深まっていると思いますが、それでも食べ物を扱う授業や宿泊を伴う校外学習は参加見合わせを求められる事例も少なくありません。発症事故への不安が根強いと考えられます。

保育施設では、給食によるアナフィラキシー発症事故が報道されています。園内でアナフィラキシーを発症して、退園を迫られた事例もあります。給食の内容は、保育・教育関係ともにアレルギー児のみの特別仕様が多く、アレルゲンを使わない給食はあまり普及していません。

食物アレルギー教室を開催する地域の聞き取り調査では、「負荷試験の意義がわからない」「エピペンの効能や副作用、打つタイミングがわからない」など、前に進めない保護者の声を多く聞きます。また保育園・幼稚園などの行事食もアレルギー児だけ別の物が提供されているが、一緒に食べられる食事を提供してほしいという要望があります。

本企画では保育園・幼稚園・学校関係者、栄養関係者にも広く呼びかけ、食物アレルギーの治療、緊急時の対処法、栄養の摂り方を学びます。さらに全員に同じ給食が提供される機会が増えるように、アレルギー対応でありながら簡単に美味しい食事作りを学ぶ場を提供します。患者家族と関係者がともに学ぶことで知識を共有し、お互いの立場も理解しあえる良好な関係のなかで施設ごとの対応が進む効果があると考えます。

食物アレルギーの子どもたちの保育と教育が保障されるために、正しい知識とより実践的なスキルを獲得することを目的として、取り組みました。

3. 活動方法

- 本企画を実施するにあたり、候補地に居住する食物アレルギーの家族から、現況と要望を聞き、それに基づいて講師とテーマを決定しました。
- 現地に居住する会員に、適切な会場探しと予約をお願いしました。
- 食物アレルギーをもつ家族、保育園・幼稚園・学校関係者、栄養関係者、行政関係者、市民に広

く周知するために、足利市の行政機関に協力を求めると同時に、隣接する他市にも広げて後援名義を取得しました。

- 広報媒体として市の広報に掲載していただきました。さらにチラシを作成して各行政機関と保育施設、学校、および在籍するアレルギー児の保護者にも広く配布しました。栃木県は該当する保護者にもチラシを手渡す方式のため、チラシ印刷枚数と送料が予定より多くなりました。
- 講演会の講師は、現地の希望で、国立病院機構福岡病院の柴田瑠美子先生に依頼しました。
- 料理教室の講師については、対応できる講師が少ないため難航しましたが、学校の栄養士対象の講習会を展開している米粉料理研究家・今別府靖子先生に依頼しました。テーマに沿った内容の実習で、保護者はもとより保育や栄養関係者にも好評でした。
- 調理実習室が狭いため募集は15名でした。申込みが定員の2倍に達したため、同じ施設からはお一人に代表していただくなど工夫しましたが、見学だけでもとのご要望をいただきましたので、当日は調理室内に入らせていただき、できた料理も召し上がっていただきました。
- 前日の調理室・調理器具・食器の洗浄、当日の下準備など多数の人手が必要で、近隣都市在住の会員と他会の方々に依頼しましたが、毎回、人員確保に苦労します。

4. 結果及び波及効果

第一部の講演会は、国立病院機構福岡病院小児科および中村学園栄養学部客員教授の柴田瑠美子先生にご講演いただきました。テーマは「負荷試験の意義と栄養の摂り方&エピペン講習会」です。定員の80席が埋まり、参加者内訳は患者保護者と学童、保育・教育関係者、栄養・調理関係者、医療関係者、行政関係者、食品関係者などでした。保育園と幼稚園の先生と栄養士、看護師さんの参加が目立ちました。保育関係者からは、耐性化や交差抗原性、治療の進め方などを初めて知ることができて、在園するアレルギー児の対応に不安があったが、関わり方を学べてよかったという感想が多く寄せられました。

エピペン講習会については、過去に講習会を受けたことはあるが、トレーナーを使って練習できたので自信が持てるようになった、打つことに不安があったが講義と練習により不安が除かれたという感想が多く、エピペン講習会の効果を感じました。子供たちも真剣な顔で一生懸命に練習して

いました。

第二部の料理講習会は、特定原材料7品目を除いたクリスマスメニュー&デザートを料理研究家の今別府靖子先生に教えていただきました。参加者の班編成は、情報交換ができるように、保護者と栄養士・保育士の混合班にしました。見学希望の関係者には、手が足りなくなっている班の手伝いをしていただきました。どの班も和気あいあいと楽しそうな調理風景でした。

メニューは「高野豆腐ときのこのグラタン」「かぼちゃ入りラビオリトマトソースがけ」「ごぼうチップス入りサラダ」「干し芋のポタージュ」「井ぶり de レンジショコラケーキ」の5品でした。

保育・栄養関係者は、高野豆腐の新しい使い方に感嘆し、鶏肉代わりに給食に提供できると語っていました。幼稚園関係者からは、デザートは材料もシンプルだし電子レンジで簡単に作れるケーキなので、みんなで作れると喜ばれました。試食の時は、7品目除去を感じさせない美味しさを味わいながら、参加者同士アレルギーの話や地域の情報が飛び交っていました。初対面なのに話は尽きず、食物アレルギーの人同士の日常的なつながりの希薄さが明らかになり、このような場の必要性を改めて感じました。

本企画には、近隣の市からの参加者が多く、茨城県や群馬県からの来場者もあったことから、地方で食物アレルギーの知識や情報が得られる機会は少ないことを感じました。保護者は日々の治療に欠かせない知識が得られたことに満足感があつたようです。学校で理解が得られずに困っている保護者は、得られた知識をもとに早速話し合ったところ、解決したという報告もありました。

市議会議員の方は、「保護者よりむしろ園の関係者が多い感じがしたこと、アレルギーの子を預かる側も困っているのではないか。むやみに怖がることはなく、正しい知識を持って対応して欲しいから、地元の先生などとこれからも定期的に学校や園を訪問したり、一般向けの講演会の企画もしていこうと改めて思った」そうです。

足利市の「健康増進部」とチラシ配布にご協力いただいた「こども課」の方からも、市民の健康増進への協力にお礼のお言葉をいただきました。

他市から参加された幼稚園の主任の先生からは、「本当に勉強になりました。全職員で受けても良かったと思う講習でした。幼稚園での活動についても色々考えることがあったので、もう一度

見直して行きたいと思います。『共に学ぶ』ということが本当に大切だと思いました。」との感想を頂きました。

食物アレルギーの患者家族と保育・教育関係者、栄養・調理関係者、行政関係者、食品企業、関心のある市民など、食物アレルギーの基礎知識と対応の実践力をともに学ぶ場として、各地で継続的に開催している「食物アレルギー教室」の目的は達成され、波及効果も参加者より報告されました。

5. 今後の活動について

9回にわたる「食物アレルギー教室」の実施により、地域ごとのきめ細かい学習会の必要性を感じます。食物アレルギーの医師によるわかりやすいご講演は、患者保護者だけでなく関わる方々の負担感を減らし、適切な対応と保護者への向き合い方に変化が生じます。特に、地方での「食物アレルギー教室」の必要性は大きいと考えます。

今年度は8月27日（日）に、東京都品川区で「第10回食物アレルギー教室」を開催します。品川区健康推進部のご協力も得られましたので、教育・保育関係者にも多くご参加いただけるよう準備を進めます。

後期は、大阪市内で「第11回食物アレルギー教室」の開催を検討しています。

以上